

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(86)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(86)—

1. 始めに

前報(85)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。さらに今回から、スピーカーの接続に NRF-005T の処理を行い、300B アンプにも NRF-005T の処理を行っています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

L'OISEAU-LYRE D1690-1~D1690-3

モーツアルト **Symphony in F Major**
 Symphony in D Major
 Symphony in E-flat Major
 Symphony in D Major
 Symphony in A Major
 Symphony in D Major
 Symphony in E-flat Major
 Symphony in G Major
 Symphony in C Major
 Symphony in D Major
 Symphony in B Major

Academy of Ancient Music

Concert Master: Jaap Schroeder

Continuo: Cristopher Hogwood

3. モーツァルトのアナログ盤の試聴結果

L'OISEAU-LYRE 盤ですが、製作は DECCA となっていますので、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

モーツァルトの 1772 年から 1773 年までの Salzburg 時代の Symphony 11 曲を集めたもので、どれも明るく軽快な曲ですが、前報(85)の 1766 年から 1772 年までの Salzburg 時代の Symphony に比べて、楽章間、楽章内のダイナミックレンジが大きくなっているようです。前報(85)と同様、オリジナル楽器による、ピッチ 430 で演奏で、Concert Master の Jaap Schroeder が率いる Academy of Ancient Music の演奏は、前報(85)と同様、爽やかでテンポのよい演奏ですが、特に弱音の美しさが際立ちます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、NRF-005T などの総合的な効果として、1772 年から 1773 年までの Salzburg 時代の Symphony 11 曲の特徴が把握できました。

以上